

未来へはばたく教育づくり

西川 裕 町長 × 塩山 一之 教育長

今月号は新春特別企画として、いま注目の『教育』にテーマを絞った対談を企画しました。

対談を行うのは、西川裕町長と平成20年10月に就任したばかりの塩山一之教育長。津奈木町の未来を支える教育のあり方について語っていただきました。

【序章】

町長への質問「町政の中での教育の位置付けについて」

少資源国・日本においては、やはり人材が宝です。経済大国の地位を築いたのも教育があったからこそだと思います。本町においても一番の宝は人です。教育予算についてはソフトを中心に力を入れていく必要があると考えます。

教育長に質問「本町の教育行政のキーワードについて」

今あつたようにまずは人づくりですね。それから子どもから高齢者までの教育づくり、そして人的・社会的・文化的財産、更にすばらしい自然環境などここに住んでいる人も気づいていないものをいかに生かすかという視点、それから「生きる力」の4つだと思います。生きる力とは確かな学力、豊かな人間性、健康と体力を総称したのですが、子どもだけでなく全ての人に当てはまるものだと思います。そういったものを育て、全ての人に生涯を通じていきいきと豊かな生活をおくってもらう。そのための環境づくりが使命だと思っています。

【学校教育編】

子どもを取り巻く環境について

町長 私は都会と田舎では少し違うと思います。都会は塾などの学習環境は整っていますがコンクリートの中で生活している。逆に田舎は塾はないけど土の上で生活しています。その点では田舎の方が情緒的に安定した生活が出来るのではないかと思います。すし、このことは特に子どもの発達過程において大事なことだと思います。地域コミュニティにしても、田舎は地域全体で子どもを見守っているという状況にあります。田舎の環境の方がのびやかで骨太の子どもに育ってくれるんじゃないかという風に思っています。

教育長 確かに田舎は競争が少ないので緊張感がないのはあると思います。他の環境はいいと思います。それから今の子どもは自然に親しむ機会が少なくなっていますので、自分達の身のまわりにある豊かな自然と関わりあう仕組みづくりが必要だと感じています。それから人と人とのつ

ながりですね。昔は子供たちが群れて遊んでいました。今は家の中でゲームで遊んでいます。学校でも横のつながりがなくなっています。すし、このことが相手の気持ちを持ちを推し量れないという状況につながったのではないかと感じています。

町長 子どもの数が減ってきたのが大きな原因でしょうね。昔は子どもの数が多くて、リーダー格の先輩がいて下の子はそれを規範として学んでいた。遊び方についてもけんかにしてもそうです。きちんとしたルールがあつて、それをみんなですべて守っていたと思います。今はテレビ画面の中で無機質な情報としか向き合っていない。そこが大きな問題です。そして、今は親が色々口を出しすぎですね。これは働き方など社会全体の構造上の問題もありますが、昔のように子どもたちを遠くから見守ることも必要だと思っています。

教育長 確かに昔はよその方からよく怒られていましたね。安全安心な地域づくりというのは地域の力を借りないといけないことです。そのように子どもたちを地域で見守る姿勢が大切だと思います。

家庭教育について
町長 ひとつ気をつけて欲しい

のは、子どもをしかるときにはしっかりと理由を説明しなければならぬということ。また、小学校までは子どもと一緒にいる時間を確保して欲しいですね。その経験が大きくなってから財産になると思います。

教育長 大切なのは、大人が持っている経験や知識を子どもと共有することだと思います。これが日本の伝統文化を引き継いでいくことにもつながると思います。

学力向上について

教育長 今の子どもには昔の子どもと比べて優れている点もたくさんあります。まずは物怖じしないこと、そして自己表現力が豊かだということ。それからなんと、言ってもメカに強いし、新しいものをいち早く取り入れる柔軟性がありますね。さらに津奈木の子どもはよくあいさつができるとほめられます。良い習慣は、学校でも家庭でも大人が率先して模範を示せば、更に頑張ってくれるでしょう。

町長 私は今の子どもたちには知識はあっても智慧がないのではないかと感じています。やはり生きていく上で生活の智慧を身につけてほしいと思います。それ

